

◇著者紹介（執筆順，＊は編者），①所属，②主要論文・著書

＊松田 憲忠（まつだ のりただ）

序・終章

①青山学院大学法学部教授

②『社会科学のための計量分析入門——データから政策を考える』（共編著，ミネルヴァ書房，2012年）

『よくわかる政治過程論』（共編著，ミネルヴァ書房，2018年）

『政策と情報』（共著，ミネルヴァ書房，2022年）

堀田 学（ほった まなぶ）

第1・9章

①拓殖大学政経学部准教授

②『ダイバーシティ時代の行政学——多様化社会における政策・制度研究』（共著，早稲田大学出版部，2016年）

『地方自治の基礎』（共著，一藝社，2017年）

『行政学』（共著，文眞堂，2021年）

青木 栄一（あおき えいいち）

第2章

①東北大学大学院教育学研究科教授

②『地方分権と教育行政——少人数学級編制の政策過程』（勁草書房，2013年）

『文部科学省——揺らぐ日本の教育と学術』（中央公論新社，2021年）

『地方自治論〔新版〕——2つの自律性のはざままで』（共著，有斐閣，2024年）

鶴田 芳貴（つるた よしたか）

第3章

①青山学院大学国際政治経済学部教授

②"What Affects Intranational Price Dispersion?: The Case of Japanese Gasoline Prices," *Japan and the World Economy*, 20(4), 2008

"Global Warming and Border Carbon Adjustments," *Asian Journal of Law and Economics*, 13(2), 2022（共著）

＊三田 妃路佳（みた ひろか）

第4・10章

①宇都宮大学地域デザイン科学部准教授

②『公共事業改革の政治過程——自民党政権下の公共事業と改革アクター』（慶應義塾大学出版会，2010年）

「政策終了における制度の相互連関の影響——道路特定財源制度廃止を事例として」（『公共政策研究』（12），2012年）

『公共政策の歴史と理論』（共著，ミネルヴァ書房，2013年）

高橋 洋（たかはし ひろし）

第5章

①法政大学社会学部教授

②『イノベーションと政治学——情報通信革命＜日本の遅れ＞の政治過程』（勁草書房，2009年）

『エネルギー政策論』（岩波書店，2017年）

『エネルギー転換の国際政治経済学』（日本評論社，2021年）

藤本 吉則（ふじもと よしのり）

第6章

①尚絅学院大学総合人間科学系社会部門教授

②『ローカル・ガバメントとローカル・ガバナンス』（共著，法政大学出版社，2008年）

『被災地から考える日本の選挙——情報技術活用の可能性を中心に』（共著，東北大学出版会，2013年）

杉浦 功一（すぎうら こういち）

第7章

①文教大学国際学部教授

②『国際連合と民主化——民主的世界秩序をめぐる』（法律文化社，2004年）

『民主化支援——21世紀の国際関係とデモクラシーの交差』（法律文化社，2010年）

『変化する世界をどうとらえるか——国際関係論で読み解く』（日本経済評論社，2021年）

鈴木 規子（すずき のりこ）

第8章

①早稲田大学社会科学総合学院教授

②『EU市民権と市民意識の動態』（慶應義塾大学出版会，2007年）

「フランスにおける市民的統合と移民の動向——ポルトガル系移民の政治的・経済的統合に関する事例」（『三田社会学』（21），2016年）

『ヨーロッパにおける移民二世代の学校適応——スーパー・ダイバーシティへの教育人類学的アプローチ』（共著，明石書店，2017年）